日本生活中心教育研究会　第２６回大会「やまがた大会」の報告

やまがた大会事務局
やまがた子ども主体授業実践ネットワーク

例年にない酷暑の続いた今夏、山形でもまだまだ暑さの残る令和５年９月１７日（日）に、「子ども達の幸せを願って～子ども主体の自由で多様な取り組みを目指して～」を大会テーマに、日本生活中心教育研究会第２６回大会「やまがた大会」(第１６回やまがた子ども主体の授業実践を考える会)を開催いたしました。

３連休の中日ということもあり、県内外から７０名近い多くの仲間に駆けつけていただき、貴重な学びの機会を盛り上げていただきました。オンラインでも、１５名の方々にご参加いただき、コロナ禍を経ての学び方の多様さを感じられた会でもありました。

開会式

事務局若手有志が前日夜遅くまで会場準備をしてくれていたのですが、参会者の皆様の早い出足に、ちょっと慌てながらのスタート

「皆様、本日を楽しみにして山形まで来てくださったのだなぁー」と実感

実践発表

実践発表してくださったのは３名とも 20～30 代。若い先生方のみなぎるパワーを感じました。

１　「おばけランドで遊ぼう」山形県立米沢養護学校　大坂先生、桜井先生

小学部の合同単元。体育館を「おばけランド」にして大型遊具を設置したり、なりたいお化けに変身しＭＴ扮するお化けと共に遊んだりと、子どもも大人もわくわくする遊びの実践でした。「おばけランド」を学校生活のテーマに位置付け、遊びにこだわったことで、「自分から」「自分で」遊びこむ様子か見られ、児童一人一人の確かな成長が見られました。

講評いただいた植草学園大学の高瀬先生からは、育成をめざす資質・能力と遊ぶ生活、合わせた指導における評価についてお話しいただくとともに、「なぜ遊ぶのか。遊びによって何が育まれるか」についてお話しいただき、改めて遊びの大切さ、奥深さに気付かせいていただきました。

２　「生と共につくる石けん班」米沢養護学校高等部　青野先生

高等部の石けん班の実践。係活動の充実と販売活動の更なる充実に向け、生徒と教師が共に本気で取り組んだ実践でした。生徒の発想を生かし、生徒ができることがどんどん広がった結果、それまで以上のやりがい、確かな手ごたえ、達成感を感じた生徒たちはとても生き生きしていました。

講評いただいた千葉市立金沢小の千葉先生からは、より良い社会参加に向け、「やりがいと手ごたえのある生活」を積み重ねることで「本物の働く力」が育つこととそのための「できる状況づくり」、そして予測不可能な時代だからこそ時代のニーズに応じ進化していく必要があることなどについて、熱く熱くお話をいただきました。

３　「ひなたショップをひらこう」南陽市立赤湯小学校　安部先生

小学校の知的、自・情緒、肢体の３学級合同で、ドリップバッグコーヒーを作り、販売する単元でした。「子ども達が求める学校生活」を追求し、仕事、生活、余暇の３つの観点から意識した年間計画や、これまでの経験、一人一人の特技を生かした工程分担によるひなたショップの単元は、特別支援学級の授業づくりで悩んでいる仲間を勇気づけてくださる実践でした。

講評いただいた岐阜大学の坂本先生からは、学習指導要領の視点から、特別支援学級において合わせた指導に取り組む根拠、子どもたちが求める学校生活を実現するための方策について、分かりやすくお話をいただきました。

製品販売

会場脇のスペースに、作業製品販売・展示、書籍販売コーナーを設けました。

山形の学校の製品だけでなく、高知の製品も販売いただきました。高知の製品は、革製品、バッグなど、どれも上質で、飛ぶように売れておりました。

米沢養護学校で焙煎している「よねようコーヒー」(ドリップバッグコーヒー)のコーナーも、昼食時、休憩時には大盛況でした。

グループセッション

予定では６０分間を計画していましたが、実践発表が盛り上がり約半分の時間になってしまいました。テーマの「「手ごたえ」「やりがい」、時に「悩み」を感じながら」について、話したいことを沢山考えてご参会いただいた皆様、申し訳ございませんでした。

時間は短かったものの、それぞれの日ごろの思い、悩みを出し合い、熱く意見を交わす中で、「やはり自分の考えは間違っていないんだなぁ」「明日からも自信をもって実践してみよう！」と、様々な気付き、勇気をいただく時間とすることができました。

パネルディスカッション

本会会長でいらっしゃる佐藤愼二先生にコーディネーターをお勤めいただきました。パネリストは、幼稚園の先生(九里幼稚園 佐藤氏)、小学校の教頭(酒田市立富士見小学校 松田氏)、放課後等デイサービス事業所の代表(放課後等デイサービス事業ハウスカ 佐藤氏)と、他の研究会ではあまり見られないバラエティに富んだ皆様にお願いいたしました。

テーマである「子どもの育ちを考える『子ども主体』の実践」のもと、それぞれのご活躍の場での実践を披露いただきました。さまざまな年齢の子ども達の実践発表ではありましたが、多くの点で共通点が見られました。「本気で」「楽しく」「ともに」取り組むことで、生活が充実していくこと、そしてやはり「子ども主体」の取り組みこそが、一人一人の幸せな生活につながるのだと感じさせられました。

また、愼二先生からは、さまざまな調査から見えてくる子どもたちの思いを教えていただきました。その中で、授業がわかる要因の上位に「先生が一生懸命」という項目が入っていました。このことからも、子どもとかかわる私たちが、本気で子どもたちの幸せを願って、子どもを真ん中に置いて、「子ども主体」の取り組みをしていかなければならないと再認識させられました。

懇親会

待ちに待った懇親会。今回は、参会された皆様に気兼ねなく存分に語り合っていただけるよう、あえて乾杯から中締めまでフリーの時間といたしました。

研究会会場脇のラウンジでの手弁当の懇親会でしたが、大会テーマのとおり、子どもの幸せを願いながら、大いに盛り上がっていただきました。まさに、「この教育は夜、作られる」を実感できる時間となりました。

～前日談～

前会長でいらっしゃる中坪先生は、前日に山形入りなされ、俳聖・松尾芭蕉の「閑さや岩にしみ入る蝉の声」の句で知られる山寺(立石寺)に登山されました。1,070 段の石段を踏破され、頂上からの絶景を楽しまれたそうです。中坪先生の健脚ぶりには、事務局一同感服いたしました。

最後に・・・

事務局では、大会の開催に向け約半年を掛けて準備を進めてまいりましたが、不慣れなことも多く、至らない点も多々あり、ご迷惑をおかけいたしました。ともあれ、この山形

の地で多くの仲間と熱く真剣に語り合い、思いを共有させていただいたことは、我々にとって何事にも代えがたいとても有意義なものとなりました。
　山形大会にご参会、ご協力いただきました全ての皆様に改めて感謝申し上げます。